

平成 26 年 2 月 13 日
別紙資料（新潟市 - 1）

新潟市報道資料

平成 26 年 1 月 9 日

報道関係者 各位

新潟市農林水産部農村整備課

約50haをモデル地区に選定！！
平成26年度から簡易整備を進めます！

新潟市江南区天野地区で田んぼダムを！

“農業農村の多面的機能の活用による、農村と都市の相互理解と協力に向けて”

近年多発する集中豪雨によって、農作物や市街地の被害が起こる中で、田んぼダムの取り組みが注目されています。

田んぼダムは、水田の持つ水を貯める力を活用し、雨水をゆっくりと排水することで排水路の急激な水位上昇を抑え、浸水被害の軽減を図る取り組みです。

田んぼダムは、排水口に小さな穴のあいた板やます等の調整装置を設置することで効果を発揮します。

平成 23 年新潟福島豪雨の際には、南区白根郷地区で浸水被害面積が約 3 割軽減されました。

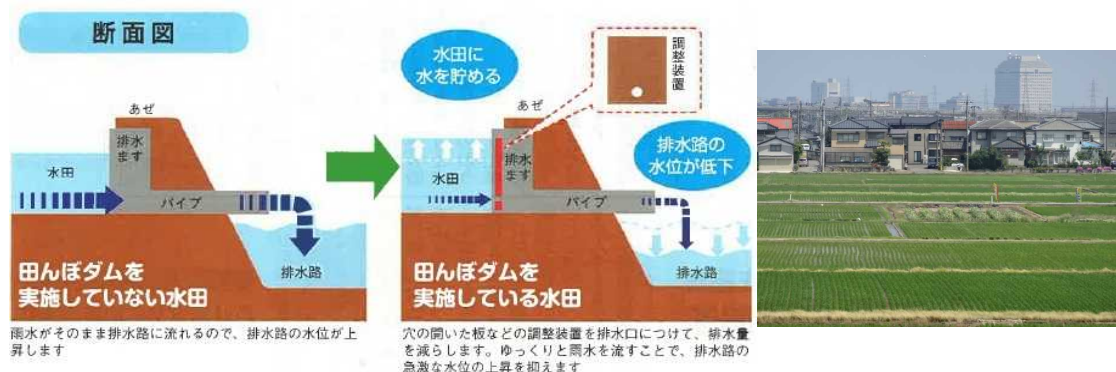
モデルとなる天野地区は近年の集中豪雨による農作物や下流の住宅地の浸水被害が発生している地区です。今回、約 50ha の田んぼを重点的に整備することにより、浸水被害の軽減が期待されます。現在、新潟大学と連携し、より効果的な取組方法を検討しており、平成 26 年度から、田んぼダム実施のための簡易整備を進めます。

本市は、農村と都市が助け合う農業都市の実現を目指し、多くの人々が恩恵を受ける田んぼダムの取り組みの、より一層の普及に努めますので、ぜひ広報にご協力いただきたくお願い申し上げます。



新潟市田んぼダム
マスコットキャラクター

た たろう
「貯め田郎」



《問い合わせ先》 新潟市農林水産部 農村整備課 農村計画係
担当：樋口・金子 ・025-226-1828(直通) fax025-230-1033

市内最大級 木戸排水区雨水貯留施設



竣工式のテープカット

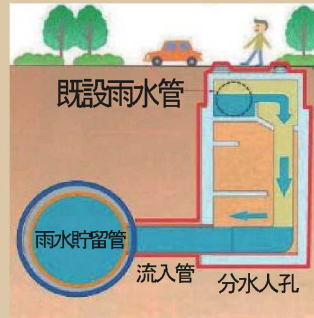
木戸地区で集中豪雨などによる浸水被害を減らすために約6年に渡り、総工費約70億円をかけて整備した「木戸雨水貯留施設」が完成し、10月29日、その竣工式が行われました。これまで同地区では、既設雨水管を通して、船川に排水し、さらに山の下開門排水機場からポンプで水位の高い信濃川に排水を行っていました。しかし、平成10年の「8・4水害」のようにポンプの処理量を超える場合に浸水被害が起こっていた。その対策として整備を進めてきました。

新潟市では最大内径となる5メートルと2.4メートルの雨水貯留管（総延長3.73キロメートル）に既設雨水管を通して雨水を貯めます。その後、晴天時に通船川に排水を行うことで、1時間に50ミリの雨にも対応できるようになります（貯留量は25

メートルプール約150杯分）。貯留管は地下鉄などトンネルを作るのと同様のシールド工法で布設されました。まず、1号貯留管のトンネルを掘削し、途中、赤道十字路交差点下で2号貯留管用に分岐して掘削。その後、ポンプ場、分水人孔、流入管が整備されました。木戸地域コミュニティ協議会の横山敏之さんは「長年浸水被害で悩んでいましたが、これからは安心して生活することができます」と喜びを語っていました。



昨年実施した、見学会の様子



既設の下水道管を流れる雨水がある水位まで上昇すると、既設下水道より雨水が分水人孔へ流れ落ち、雨水貯留管へ流れていきます。

施設に関する問い合わせ 東部地域土木事務所建設課（☎281-9560）